PHARMACY NEWSBREAK
2025年11月10日（月）

在宅訪問薬剤師の「メンタルケア」必須

福岡・池田薬局、会議とメンターで悩み共有

2025/11/10 04:50



「薬剤師会議」の様子

在宅訪問薬剤師は、終末期の患者対応や他職種・患者家族とのコミュニケーションなど、さまざまな悩み・不安を抱えながら働いている。福岡県北九州市小倉北区で在宅訪問に注力する「池田薬局」は、そんな悩みを同僚に打ち明け、話し合う「薬剤師会議」を定期的に開催している。プライベートの悩みも含めて何でも相談できる「メンター」役の管理職も置く。同社の池田充宏取締役専務は、在宅現場で薬剤師の役割が拡大していく中で「メンタルケアは必須」だとし、薬局での体制整備の必要性を訴える。

●週1回の「薬剤師会議」


池田充宏専務と管理薬剤師の池田さやか氏

池田薬局では10年ほど前から、社長から勤務薬剤師までが一堂に会する「薬剤師会議」を週1回開催している。それぞれが日々、現場で困ったことや疑問に思ったこと、共有すべきと感じたことを「共有ノート」に書きため、会議で1時間弱かけて話し合う。

会議を始めたきっかけは「在宅の悩みを相談する場が欲しい」という従業員の声。充宏氏の妻で管理薬剤師の池田さやか氏は、時間外・臨時対応、患者や他職種とのコミュニケーションなど、薬剤師の精神的負荷は大きいと指摘する。「在宅に熱意を持って取り組んでいる薬剤師ばかりだが、メンタルケアをないがしろにすると思わぬミスが出たり、辞めたりするケースもある」とし、薬剤師にとっての“保健室”の必要性を強調する。

入社8年目の男性勤務薬剤師は、終末期の患者に対応した際、「いざ自分が担当することになったときは不安だったが、会議で亡くなられた場合の対応を細かく確認し合ったことで、精神的に楽になった」と振り返る。

●「相撲部屋のおかみさん」

会議だけでなく、さやか氏の存在も従業員にとって「大きい」と話す。在宅の経験が豊富で業務上頼りになるだけでなく、「子育てなどプライベートのことも含め、全面的にサポートしてくれる。こちらが遠慮しがちでも、さやか先生から声をかけてくれるので相談しやすい」という。

さやか氏はこうした役回りを「仕事としてやっている感覚はない」と話すが、特に在宅対応に注力する薬局には「自分のような“相撲部屋のおかみさん”役が必要」と自負する。

●「管理者2人体制」が理想



福岡県北九州市小倉北区に店舗を構える池田薬局。池田充宏専務は「あえて多店舗展開せずに、リソースを1店舗に集約することで、質の高いサービスを提供していきたい」と話す

充宏氏は「メンターの存在はどの薬局においても重要」とし、薬剤師会などによるメンター養成研修の開催を期待する。個々の薬剤師がメンタルヘルスの重要性を認識できるよう、在宅関連の認定薬剤師研修などで関連プログラムを導入すべきとも指摘した。

また、管理薬剤師1人ではメンタルケアまで手が回らないとして、「管理者2人体制」が理想だと強調。同社では充宏氏が経営と業務全般を統括し、さやか氏が主にメンター役を担っている。充宏氏は、在宅関連の調剤報酬の加算で、施設基準に「メンターの設置」を入れるなど、「薬剤師のメンタルケア体制の評価」を求めた。（持丸 拓也）

All documents,images and photographs contained in this site belong to JIHO,Inc.
Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.
Copyright (C) JIHO,Inc.

株式会社じほう